

感震ブレーカーアダプター ヤモリ【GV-SB1】

取付説明書

株式会社リンテック21

【事前確認】



まず箱よりヤモリを取り出して下さい。

本体+アルコールパッドが同梱されています。

※アルコールパッドは取付場所清掃に使用。
乾燥剤ではありませんので捨てないで下さい。

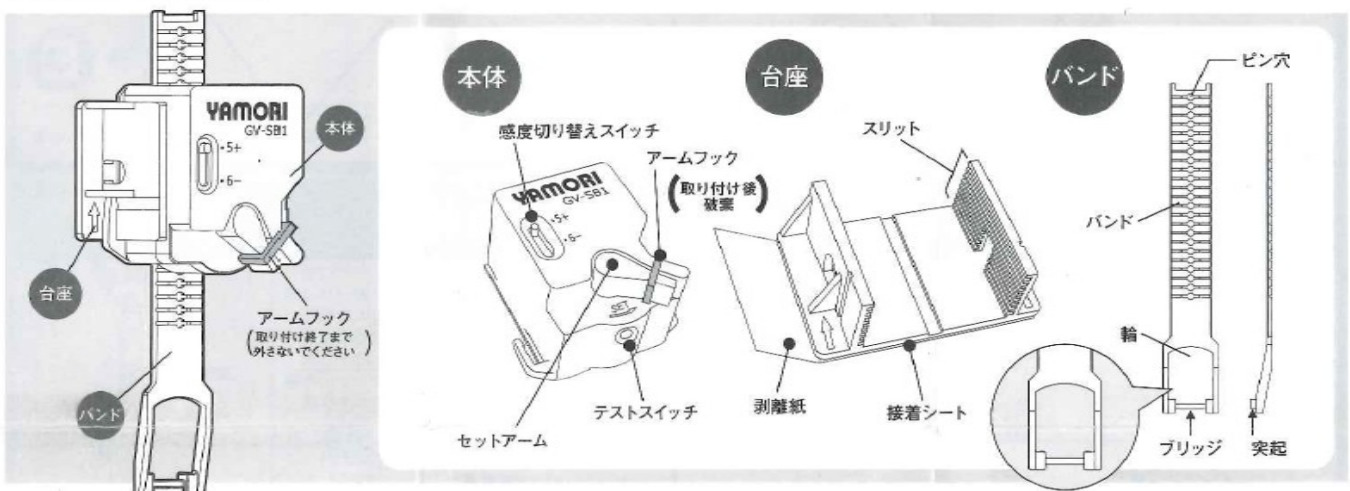
ヤモリ本体

アームフック(赤色)

バンド

アルコールパッド
(ヤモリ取付箇所清掃用)

各部の名称



製品の構成

- 本体：1個(構成：本体、台座、バンド、アームフック 各1個)
- アルコールパッド：1枚
- 取扱説明書(本書)：1部 ※開梱したら構成品をご確認ください。

お客様にご用意いただく物

- はさみ(取り付けの際にバンドが長い場合、カットする為に使用)

【注意事項】（必ずお読みください）

- 注意(1) 赤いフックは取付完了まで外さないで下さい。
- 注意(2) 取付位置確定後、必ず接着面を掃除して下さい。（添付アルコールパッド使用）
- 注意(3) 掃除後、必ず乾燥（2～3分程度）させて下さい。
- 注意(4) パソコン、録画機器、炊飯器等電機製品の電源が切れている事を確認して下さい。
- 注意(5) 明るい時間帯（昼）に作業して下さい。（テスト時ブレーカーを落とします。）
- 注意(6) ホームセキュリティにご加入の場合、ブレーカーが落ちる事を事前に警備会社へご連絡下さい。
（事前通知しない場合、緊急出動がかかり別途費用が発生する場合がございます。）
- 注意(7) ご自宅内に人工呼吸器などの生命維持に関わる医療器具が設置されている場合は医療器具補助電源が確実に動作する事を御確認の上、取付して下さい。

※ よくある質問

- ◇ヤモリは垂直な状態でなければセットアームが固定できません。
（水平、斜め、逆さま状態では固定できませんが故障ではありません。）
- ◇ヤモリはサービスブレーカー及び漏電ブレーカー、どちらに取り付けても効果は同じです。
漏電ブレーカーのほうが設置スペースが確保しやすい場合が多いです。

※ 備える

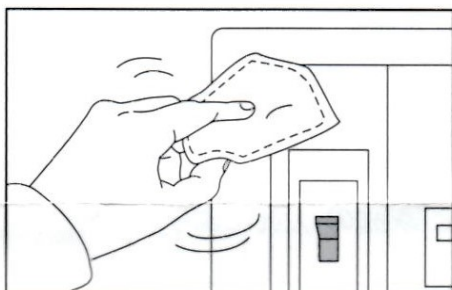
- ◇感震ブレーカーが作動すると、ご自宅の電源が全て落ち、電気が消えて真っ暗になります。
また、台風・事故などの災害でも停電は起こります。
ぜひ懐中電灯や電池式ラジオなどを併せてご準備いただきます様お願い致します。

【基本取付方法】

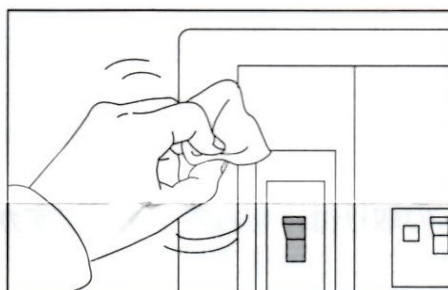
① 貼り付ける場所の清掃

接着する位置が決まったら、乾いた布でふいて、ホコリを取り除きます。付属のアルコールパッドを使い接着部分をきれいにします。

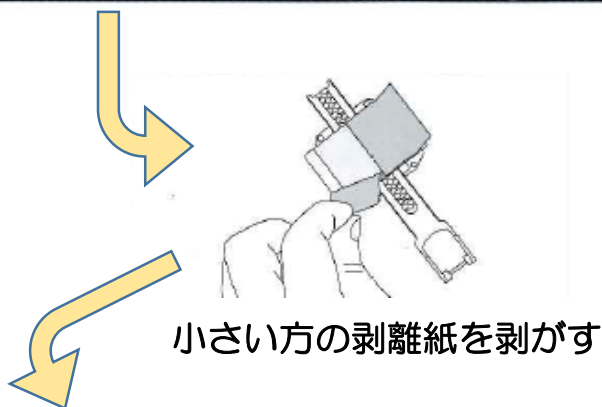
※アルコールが乾くまでは貼り付けないでください。



布で軽く拭く



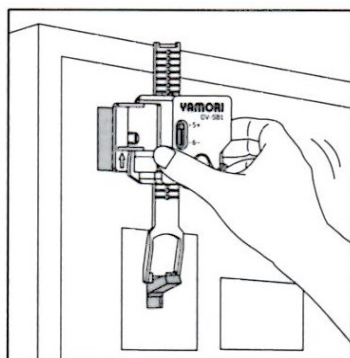
アルコールパッドで仕上げ



② 仮固定

バンドを目安にし、目で見てもほぼ垂直になるように手で持ちます。バンドのブリッジをブレーカーのレバーに軽く押しあてて本体を分電盤に軽く押しつけます。

※突出型の場合、埋込型の場合の取り付け方は、「取り付け例」をご参照ください。

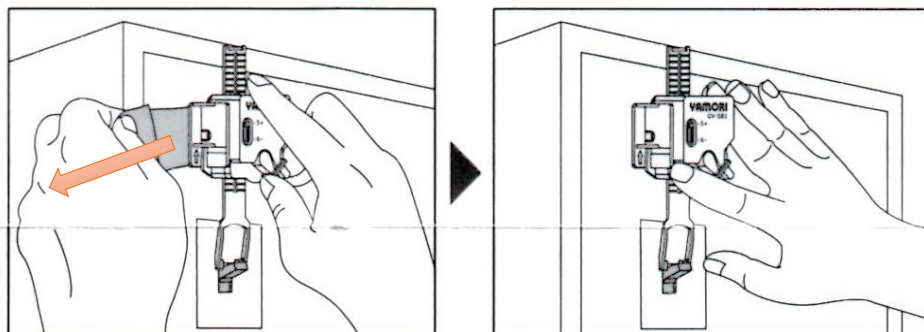


チェックポイント

- バンドはほぼ垂直ですか？
- レバー突出型の場合、バンドのブリッジがレバーにあたっていますか？
- レバー埋込型の場合、本体が台座の最下段のスリットに入っていますか？
バンドの突起がくぼみに入って、レバーにあたっていますか？
- チェックの結果修正が必要な場合、仮固定をはがしてやり直してください。

③ 本固定

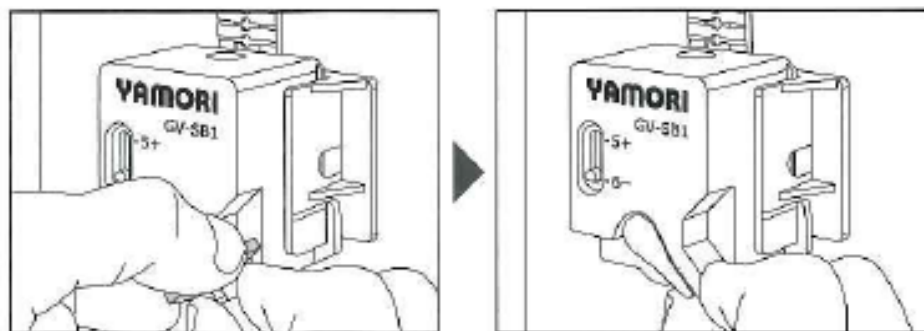
外に出ている剥離紙を外側へ引きながらはがします。本体の中央部を5回ほど強く分電盤の方向に押ししてください。



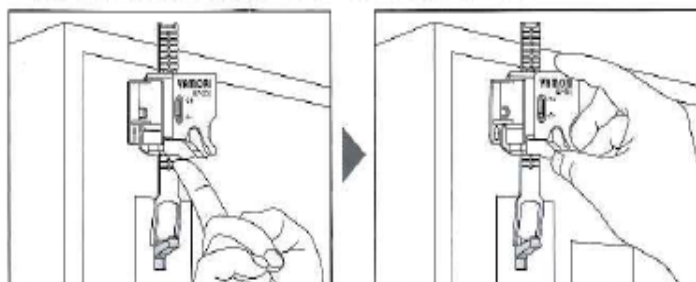
大きい剥離紙左へ抜き取る

④ アームフックの取り外し

右手でセットアームの先端を軽くつまみ、左手でアームフックを手前方向に引いて外します。右手はセットアームを保持したまま、さらに強くつまみセットします。



⑤ 動作テスト



赤いテストスイッチを押す

セット完了

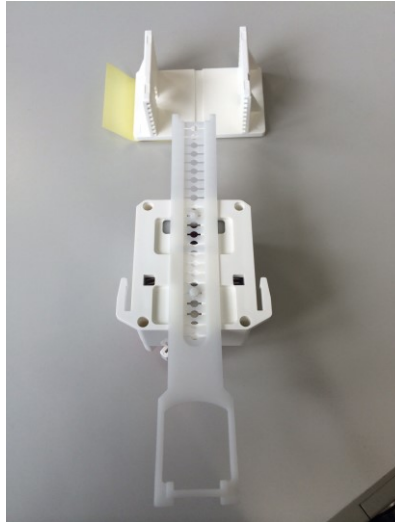
【バンド向き変更方法】

①ヤモリと台座をスライドさせて
分離させます

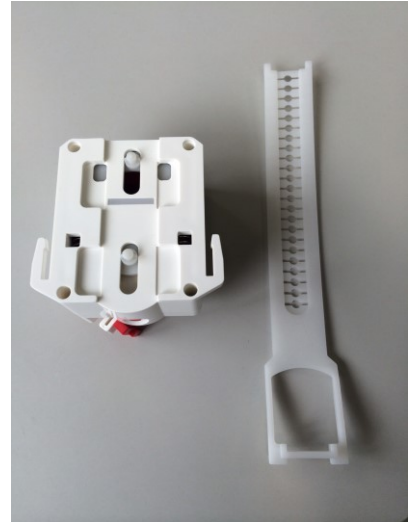


(下方向へ本体をずらす)

②本体を裏返します



③バンドを外します。



④バンドを上下逆に付け替えます。



⑤本体を台座へ戻します。



⑥準備完了です。



(今度は下から上へ差し込む形で)

※ 取付イメージ画像



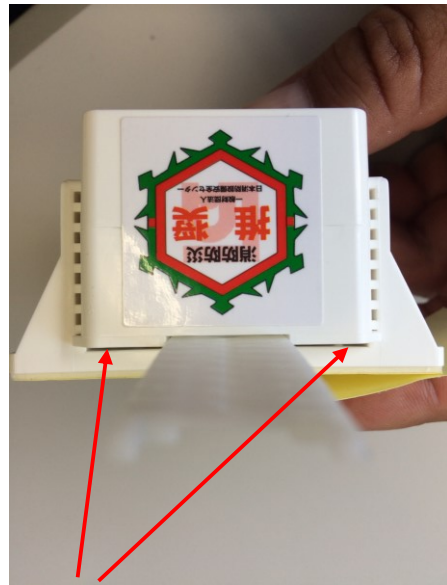
- バンドの長さ、本体と台座の高さ等は、
分電盤の形状に合わせ、調整をお願いします。

【埋込型スイッチへの取付方法】

①台座と本体をスライドさせて外してください。

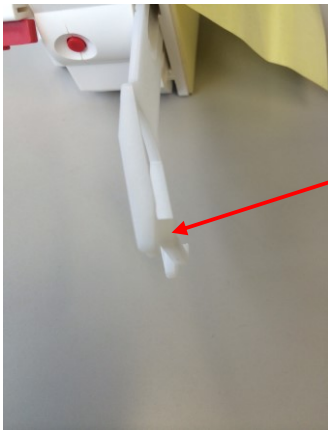


②台座の一番下のスリットへヤモリ本体を取付け直してください。

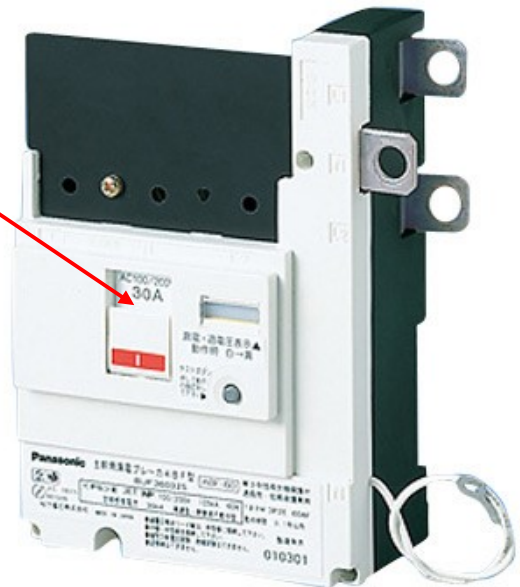


この部分です。

③矢印部分の突起をスイッチへ入れ込んで位置合わせを実施してください。



この部分です



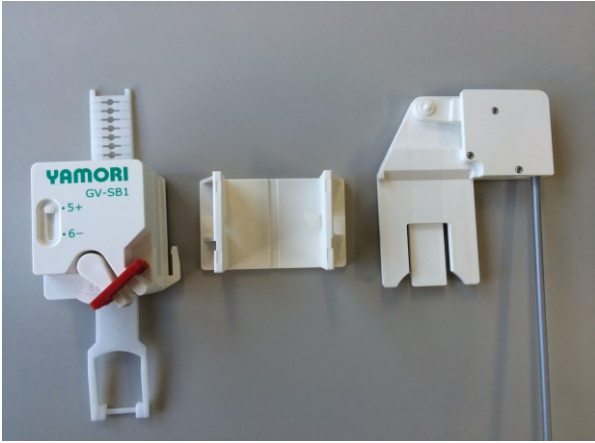
④位置合わせ後、両面接着にて固定して下さい。



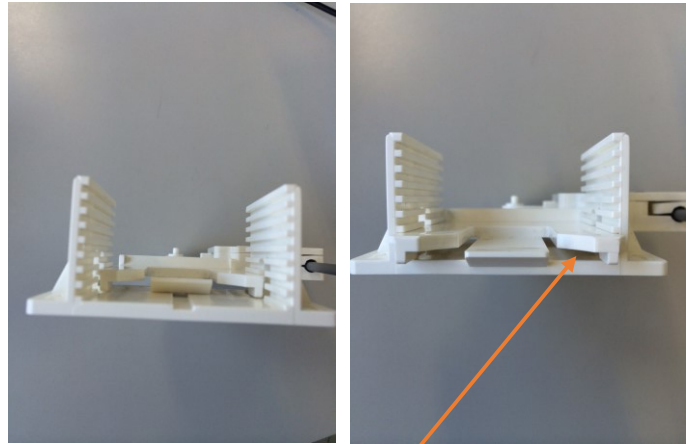
●埋込型スイッチの場合も、下側に設置の際はバンドを一度外し、上下逆に付け替えてください。
(前ページ参照)

【ヤモリ・デ・リモート セッティング方法】

- ①ヤモリ本体と台座を分離し
ヤモリ・デ・リモートを準備します。



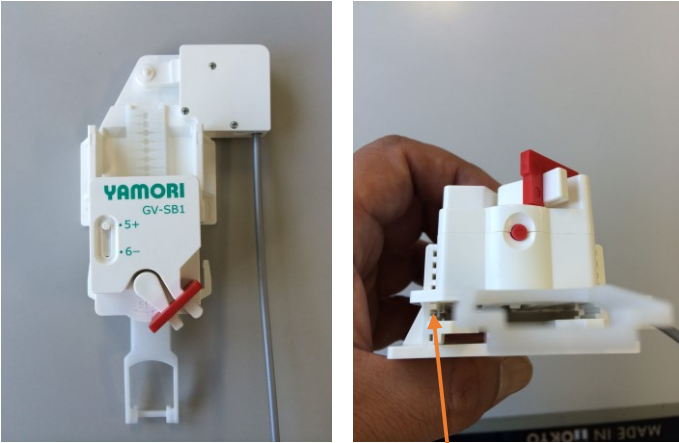
- ②台座の下から2番目のスリットに
リモートを差し込みます。



下から2段目のスリットへ

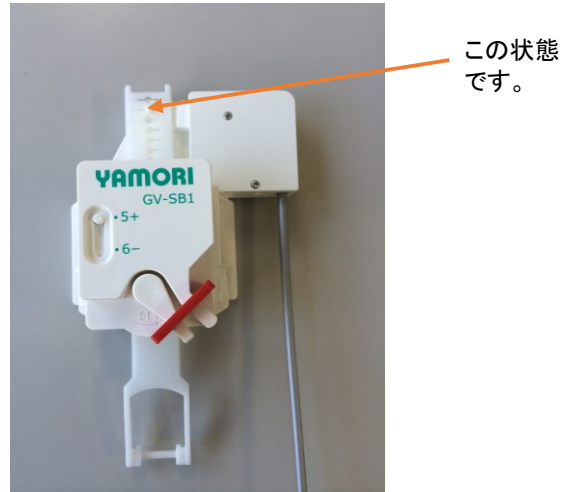
この状態まで差し込んで下さい。
(カチッというまで)

- ③台座の下から4段目のスリットに
ヤモリ本体を差し込みます。



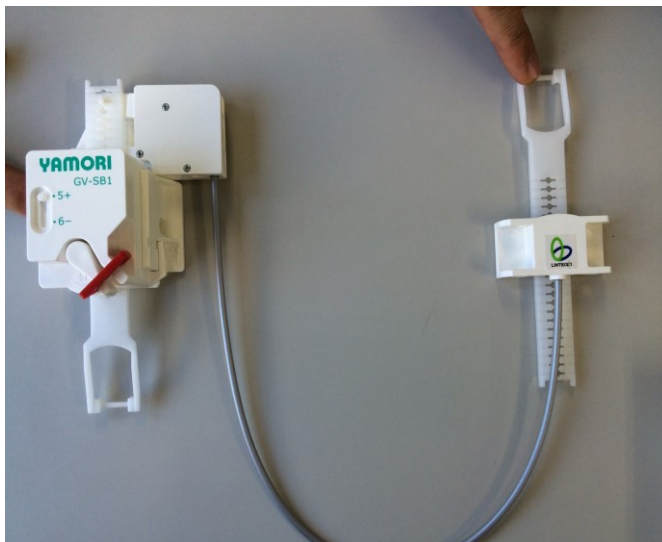
下から4段目のスリットへ

- ④ヤモリ本体のバンド上から2個目の穴に
リモートの突起を入れ込んで下さい。

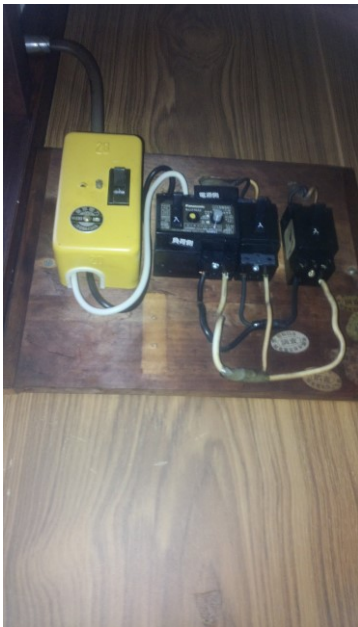
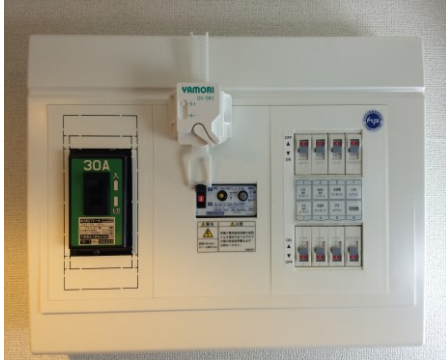


この状態
です。

【参考】完成図



【取付事例画像】



【取付不可(困難)例】

例)①スイッチが堅い



河村電器産業製は堅い傾向があります。

例)③スイッチが堅く幅が広い



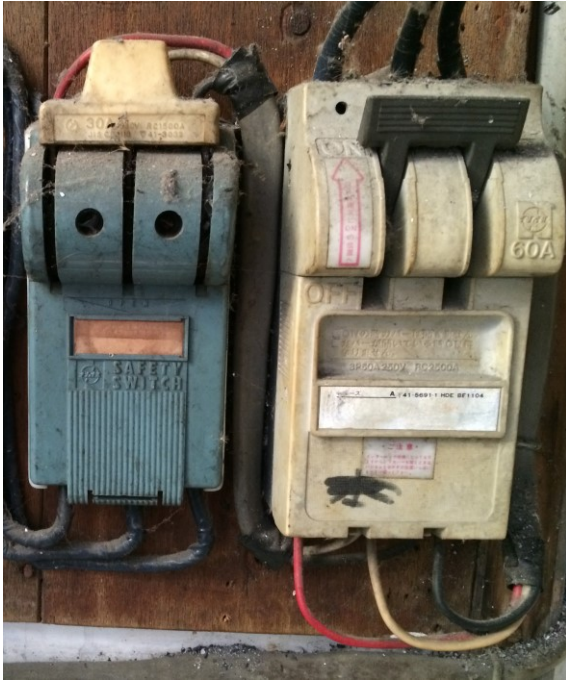
例)②スイッチストロークが長い



例)④契約アンペアが大きい(75、100A等)



例)⑤開閉器タイプ



例)⑥金属性蓋観音開き分電盤(蓋が閉まらない)



例)⑥カマボコ型(加工が必要)



※ 堅いスイッチやロングストロークに関しては、対応できるオプション品を開発し発売予定でございます。

【感震ブレーカー作動後の復旧方法】

感震ブレーカー作動後の復旧方法(地震発生後1)

1. 建物が全壊や半壊となった場合には復旧しないでください。
2. 通話可能な電話と使用可能な消火器を用意してください。
3. 復旧作業は日中に2名以上で行ってください。
4. 電化製品のコンセントをすべて抜いてください。
5. 子(分岐)ブレーカーをすべてOFFにしてください。

チェックをしないとこんな事に



感震ブレーカー作動後の復旧方法(地震発生後2)

2. **子(分岐)ブレーカーをOFF**にしてから感震ブレーカーを**ON**に戻し、安全を確認しながら子(分岐)ブレーカーを**ON**にして下さい

感震ブレーカーが地震で作動したことにより漏電ブレーカーはOFFの状態になっていますので、下記の①と②の作業を行って下さい。

- ①感震ブレーカーの左に向いているレバーを右側に動かし、カチッと音がする所まで動かして下さい。右側で固定状態になった段階で感震ブレーカーがセットされたことになります。
- ②漏電ブレーカーのスイッチがOFFの状態になったままになっていますので**ONの状態**にして下さい。

